

ふくい宇宙産業創出研究会 公開セミナー

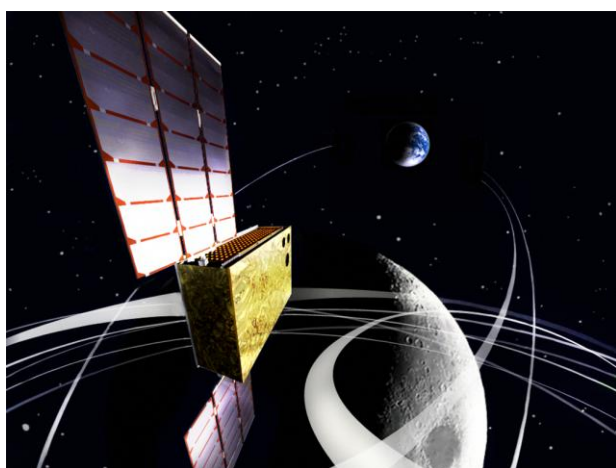
～宇宙産業技術開発の最前線～

NASA の新型ロケット SLS (Space Launch System) は、2018 年に打ち上げが計画されています。東京大学と JAXA が共同で提案した 6U サイズの深宇宙探査用の超小型衛星 EQUULEUS (エクレウス: EQUilibriUm Lunar-Earth point 6U Spacecraft) はこの新ロケット初号機に搭載が決定されており、地球から月の裏側(ラグランジュ L2 ポイント) を目指します。



SLS (Space Launch System)

超小型探査機による深宇宙探査ミッションとして、宇宙産業技術開発の最先端の取り組みとなっています。



EQUULEUS

(EQUilibriUm Lunar-Earth point 6U)

東京大学 大学院工学系研究科 航空宇宙工学専攻の船瀬龍准教授は、世界初の超小型深宇宙探査機 PROCYON (プロキオン) のプロジェクトマネージャを務め、深宇宙探査を高頻度・低コストに実施する可能性を提供しました。これより、今後の宇宙産業の更なる活性化が期待されています。

新領域創成科学研究科の小泉宏之准教授は、船瀬准教授と共同で PROCYON プロジェクトを推進し、EQUULEUS では新たな要素技術である水レジストジェットスラスタ AQUARIUS の開発を担当されています。

ふくい宇宙産業創出研究会では、上記プロジェクトの成果で平成 29 年度科学技術分野の文部科学大臣表彰 科学技術賞（研究部門）を受賞されたお二方を福井にお招きし、深宇宙探査機の開発現場の最先端技術についてご講演いただくことで、宇宙産業への進出を目指すものづくり企業の参入を支援します。

講師プロフィール

(1) 船瀬龍 氏

略歴

東京大学工学部 航空宇宙工学科卒業

東京大学大学院 工学系研究科 航空宇宙工学専攻

博士課程 修了、博士（工学）

独立行政法人 宇宙航空研究開発機構 勤務

2012.10～ 現職

研究活動：超小型衛星・深宇宙探査機システム、宇宙機の軌道・姿勢力学、航法・誘導・制御、宇宙機の自律化・知能化、人工知能の宇宙応用 など



(2) 小泉宏之 氏

略歴

慶応義塾大学 理工学部 機械工学科 卒業

東京大学 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 修士課程修了

東京大学 工学系研究科 航空宇宙工学専攻 勤務

宇宙航空研究開発機構 宇宙科学研究所 勤務

東京大学 工学系研究科 航空宇宙工学専攻、

先端科学技術研究センター 勤務

2015.4～ 現職

研究活動：低電力小型イオンスラスタ、マイクロ固体スラスタ、無電極プラズマスラスタなど



以上